

平成 29 年 3 月 11 日

## 第 52 回弘明寺サロン開催記

### 『仮名手本忠臣蔵』 - お軽勘平 DVD 鑑賞会

日時 平成 29 年 3 月 11 日 (土) 13:00~16:15  
場所 第 4 講義室  
参加者 23 名  
解説 佐楽慎二 放送大学神奈川同窓会会長

次回の第 53 回弘明寺サロンで戸塚宿周辺を散策することになっており、途中には「お軽勘平の碑」があることから、「『仮名手本忠臣蔵』 - お軽勘平」の DVD を前もって鑑賞することになった。

DVD 鑑賞の前に、佐楽さんからレジメに沿って解説があった。

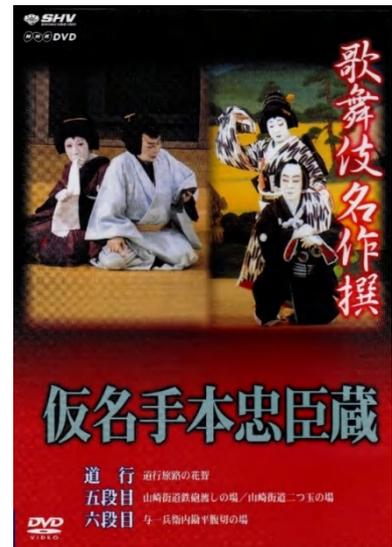
(仮名手本忠臣蔵の梗概)

(道行 旅路の花婿)

(五段目 山崎街道鉄砲渡しの場・二つ玉の場)

(六段目 与市兵衛内勘平腹切りの場)

「大石内蔵助の仮名手本忠臣蔵は人形浄瑠璃として寛永元年(1748年)に初演され、その後すぐに歌舞伎になりました。元禄14年(1701年)松の廊下で浅野内匠頭が吉良上野介に刃傷に及んだ事件を下敷きとして、時代を室町時代に遡って創作されました。作者は竹田出雲、並木千柳、三好松洛の合作で、近松門左衛門の義士劇「碁盤太平記」から取り入れられている。なお、忠臣蔵の「蔵」は大石内蔵助の「蔵」、「仮名手本」は47人の義士をいろは仮名47文字に擬え、武士の手本とした題名です。」(梗概より)



歌舞伎の場面は文字だけではすぐに頭に入らなかったが、佐楽さんの大変上手な解説のおかげで一気に理解が深まり、内容の面白さに引き込まれた。

その後 DVD を鑑賞。あまり馴染みのない歌舞伎は、現代劇の何倍もゆっくりしたテンポで話が進むように感じられたが、その分じっくりと心の奥まで響いてくる。話の内容は解説でわかっていたはずなのだが、名優たちの演技もあり、特に最後の六段目では展開に

ハラハラドキドキの連続だった。

「六段目は仮名手本忠臣蔵の中で最も人気のある場面として、早くから親しまれています。また史実や実話の「赤穂浪士劇」にはないお軽勘平のメロドラマが歌舞伎では最も愛された場面でした。仮名手本忠臣蔵の主人公は当然大星由良之助(=大石内蔵助)ですが、もう一人のヒーローは勘平です。武士道に邁進できず、「色に耽ったばかりに」悲劇の最後を遂げる勘平が、忠義と武士道の鑑と言われる47人の義士と好対照になっており、お軽との美男美女の取り合わせに、江戸の庶民の人気が高まったようです。」(六段目より)

「なお仇討ちの原因は、赤穂浪士ではお金(賄賂)ですが、忠臣蔵では恋です。恋こそは人を突き動かし、時には人を破滅させるものであることを物語っています。」(梗概より)

解説と鑑賞で歌舞伎を堪能し、次回4月6日の弘明寺サロン「ぶらり散歩東海道・戸塚宿」への興味も一段と深まり、参加者の皆さんの笑顔で鑑賞が終わった。最後に澤村さん指導の太極拳で体を心地よくほぐした。

(記録 高垣和子)